

竹鷄

九州には珍らしき鳥多し。○中肥前肥後邊の海上に、脛高く口ばし長く少し鼠色にて、翼に白き點紋ある鳥あり、舟人にとっては、しゃくといふ鳥也といふ。余○南鎌肥後の隈本にて、ある醫家を訪たりしに折ふし彼家へ鳥を送り來れり、主持出で余に此鳥をしり給ふやととはる、先に此邊の海上にて見し鳥にて、上方にては見侍らざる鳥なりといへば、あるじ笑ふて、此鳥は唐土の南方にありといふ鷄鳩なり、船人などは言ひ誤りて、しゃくと覺えたり、上方の人にはめづらしかるべければ、料理すべしとて、やがてあつものとなしぬ、其味誠に美にして、いと珍らしかりき、又其翼をこひて歸りしに旅の日永くて、途にて鼠の爲に奪はれぬ、此鳥いよ／＼鷄鳩なりや唐土にては南國のみにある鳥にて、多く詩に作りて、皆都遠く離れたる情を述たり、日本に鷄鳩有事を聞ざることにていぶかしけれど、彼醫家も博物の人なれば、考ふる處もあるにや。

〔多識編禽〕竹雞多計乃登里異名山菌子藏器

〔和爾雅禽六鳥〕竹シキ山菌子シキ、泥滑滑並同、  
或云山和尚亦同、

〔庖厨備用倭名本草原禽〕竹鷄 倭名抄に竹雞ナシ、多識篇ニタケノトリ訓蒙圖彙ニヤマシギ、或云ウバシギ、考本草此鳥多ハ竹林ニラレリ、其形鷄鳩ニ比スレバヤ、ホソシ褐色ニシテ斑オホク赤文アリ、好テ啼鳥也、其雛ヲミレバ必ズタ、カフ、又好テ蟻ヲ食ス、元升曰、此說ノ如キ鳥アラバ竹雞ナルベシ、ヤマシギ、ウバシギ、イヅレナルラン。○中略

竹雞肉味甘性平毒ナシ、野雞病ヲ治シ蟲ヲコロス、

解毒、鷄鳩ト竹雞トハ、常ニ好テ半夏苗ヲ食ス、又鳥頭苗ヲ食ス故ニ人多ク此二鳥ヲ多食シテ、其毒發シタルニハ、生薑ヲ用テヨシ、其說本草註ニミエタリ、

〔太和本草十五禽〕竹雞 ツグミヨリ大ニ、鳩ヨリ小也、頭小ニ尾短シ、背ト翅ノ毛黃褐色マダラ也、ワキニ白黒ノ文アリ、嘴少長シ、味ヨシ、本草ニ載タリ、